

ソーシャルフラワーとは、
フラワーアレンジメント活動の効用を
医療や福祉などに活用する花のことで、
さまざまな活動への応用が可能です。

認知リハビリテーション※

フラワーアレンジメントを制作するプロセスを通じ、記憶力や注意力、視空間認識などの脳の認知機能の改善効果が認められています。



アクティビティケア
(高齢者のレクリエーション)

高齢者施設等でフラワー教室を開催し、フラワーアレンジメントの作品を創る楽しさや達成感、お仲間同士の交流により、心身の活性化が得られます。



花をカットする
長さの目安になるシート。



花を挿す場所に
目印がついたスポンジ。

ソーシャルフラワーの
講演、体験会などに関し、詳しくはFLS協会に
お問い合わせください。

一般社団法人
フラワーライフスタイリスト協会

花育活動

子どもたちの情操教育の一環としてフラワーアレンジメントを活用してみましょう。ソーシャルフラワーキットの活用により、学校や保育園から、地域のコミュニティ施設やご家庭でも手軽に花育活動を行うことができます。

メンタルヘルス

ストレスチェック制度の浸透により企業内におけるメンタルヘルス対策が求められています。福利厚生の一環としてソーシャルフラワーの活用をお勧めいたします。

※認知リハビリテーションについて

認知リハビリテーションは、脳卒中や事故などで発症した高次脳機能障害による日常生活や社会生活における困難を軽減させ、失われた脳の機能(注意、知覚、記憶、視空間認知、さらに推理や計画能力)を補うような力をつけることを目的としています。フラワーアレンジメント活動を使ったリハビリテーションにより「記憶力、視空間認識力、注意力」の改善に関する研究実績が報告されています。(詳しくはFLSホームページならびに農研機構ホームページをご参照ください)

農研機構 《認知リハビリテーションに関するお問い合わせ先》
国立研究開発法人農研機構 野菜花き研究部門

URL: <https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry>

一般社団法人
フラワーライフスタイリスト協会

〒106-8587 東京都港区南麻布1-6-30
TEL 03-5444-8750(事務局直通) FAX 03-5444-8752

<http://flsa.jp/>

参考文献

- (1) 白井 はる奈(佛教大学 保健医療技術学部作業療法学科), 白井 壯一, 広崎 真弓, 大平 哲也, 望月 聡, 武山 直義, 松林 潤, 山根 寛 / 「地域在住の中高齢成人に対するフラワーアレンジメントの介入効果 - 心理面の変化と唾液中コルチゾール値に着目して」 / 保健医療技術学部論集(1881-3259)6号 Page11-21 (2012.03)
- (2) Mochizuki-Kawai H. Structured floral arrangement program developed for cognitive rehabilitation and mental health care. Japan Agricultural Research Quarterly. 50, 39-44, 2016.
- (3) Mochizuki-Kawai H, Yamakawa Y, Mochizuki S, Anzai S, Arai M: Structured floral arrangement program for improving the visuospatial working memory in schizophrenia. Neuropsychological Rehabilitation, Vol.20, pp. 624-636. 2010.
- (4) 望月寛子,小谷泉, 牧山康志, 山川百合子: フラワーアレンジメント作業を取り入れた認知リハビリテーションによって左半側空間無視症状を長期的に改善させた1例. 高次脳機能障害, Vol.33, pp. 262-269. 2013.

この冊子は、平成29年度「産地活性化総合対策事業のうち国産花きイノベーション推進事業(花きの効用検証・普及事業)」(農林水産省)を活用して作成しました。*冊子内の図表、画像、文章の転用は固くお断りいたします。

平成29年度版

花のチカラ 緑のチカラ

花の美しさ

…その先にある”何か”を求めている人々があります



花のチカラ 緑のチカラ

花き(鑑賞用の花や緑)は人間が生きてゆくうえで、日々の暮らしに彩を添えるだけでなく、心や体に良い影響をもたらす効果があることがわかっています。

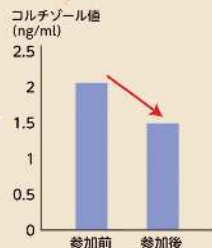
私たちは、この花のチカラ(効用)に注目し、医療や福祉、教育などの分野で積極的な花きの活用を提案してまいります。



これまでの文献調査ならびに
独自の臨床実証を通じ
フラワーアレンジメント活動(FAP)が
心と体の健康に及ぼす効用を
検証いたしました。

ストレス軽減の効果

FAPの参加者の唾液中のコルチゾール(ストレスホルモン)を測定したところ、その値が28.2%下がることが確認されました。これは緊張が緩和し気分がくつろぐというストレス軽減効果が生まれたことを意味しています。※参考文献(1)



認知機能の改善効果

フラワーアレンジメントが認知機能の改善のためのプログラム(SFA)として効果があることが実証されています。脳卒中や事故等による高次脳機能障害(注1)の患者を対象にした臨床試験では、記憶課題の成績や視空間認識の成績の向上が確認されています。※参考文献(2,3,4)



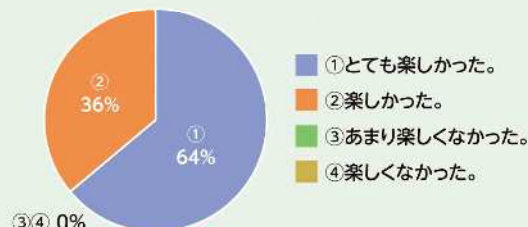
アクティビティケアの臨床実証

アクティビティケアとは、施設などで行われる生き生きとした生活を取り戻すためのレクリエーションなどを活用したケアのことです。私たちは、先行研究で実証されたフラワーアレンジメント活用の効用をふまえ、平成30年3月に東京都内の高齢者施設で延べ33名のご高齢者のご協力によりレクリエーション効果を図るため計6回のフラワーアレンジメントを使ったプログラムの臨床実証を行い、アンケート等により感想などをお聞きました。



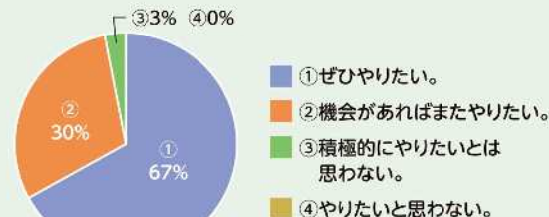
実施後のアンケート結果

●今日のフラワーアレンジメントは楽しかったですか?(合計)

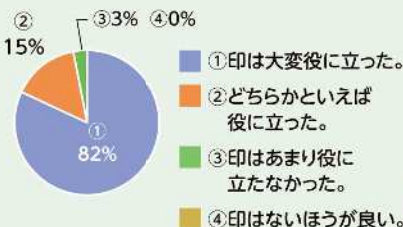


6回の実証のうち、自分でハサミを使い花をカットする回とあらかじめカットされた花を使う回の印象を比較しました。楽しさの度合いに変化がみられます。

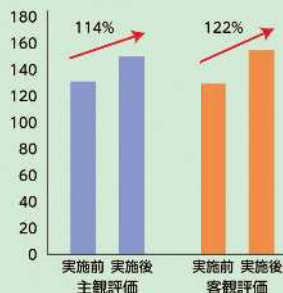
●またやりたいと思いますか?(合計)



●スポンジの印は役に立ちましたか?



印をつけた補助機能付きスポンジを使用しました



左のグラフは、プログラムの実施前と後で変化する気分を点数化して比較したものです。「今の気分はどれですか?」に対する回答を、●良い……5点 ●やや良い……4点 ●ふつう……3点 ●やや悪い……2点 ●悪い……1点 に置き換え総点数としました。主観評価は本人の回答、客観評価は評価者の判断です。

〈臨床事例〉

認知リハビリテーションに参加した重度認知症のSさんは、アクティビティケアプログラムの中で「頭はボーしているけどお花をみるとパーといきいきするの。これがあるからできる。」とコメントし、作品作りを楽しんでいました。(右はSさんの作品)

